

[成果情報名]シイタケオオヒロズコガの生態と粘着シートを用いた駆除効果

[要約]シイタケオオヒロズコガの発生ピークは、6～7月と9～10月にある。このピーク時にほだ組みの内側下方に粘着シートを設置すれば効率的に駆除できる。また、シイタケオオヒロズコガの発生は木片駒使用ほだ木より成形駒使用ほだ木が多く、原木樹種ではコナラよりアベマキが多い。

[キーワード]シイタケオオヒロズコガ、発生消長、粘着シート、アベマキ、成形駒

[担当]農林技術開発センター・森林研究部門

[連絡先]（代表）0957-26-3330

[区分]林業

[分類]指導

[背景・ねらい]

シイタケオオヒロズコガ幼虫は、製品として出荷された乾しいたけから発見されるクレーム頻度の高い蛾の幼虫である（写真1）。乾しいたけの99%は対馬市で生産され本県の重要な特産物となっており、シイタケオオヒロズコガの駆除が求められている。しかし、本県におけるシイタケオオヒロズコガの生態は不明なため、生態を解明し効果的な防除方法を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. シイタケオオヒロズコガの発生は6～7月と9～10月の年2回のピークがある（図1）。
2. 当年植菌した0年ほだ木には7月初旬から若齢幼虫の侵入が見られ、2回目の発生ピーク時に成虫が発生する（図1）。従って、越冬幼虫による成虫の羽化ではなく、当年発生した成虫による産卵によって生育・発生したものと推測される。
3. シイタケオオヒロズコガの発生は木片駒使用ほだ木より成形駒使用ほだ木が多く、原木樹種ではコナラよりアベマキが多い（図2）。
4. 発生ピーク時に、ほだ組みの内側下方に粘着シートを設置すれば効率的に駆除できる（図3、写真2、写真3）。

[成果の活用面・留意点]

1. センター内人工ほだ場での2011年のデータである。
2. 汎用性のある市販の農業用防虫粘着板を用いて現地での効果を確認する必要がある。
3. ほだ木の組み方が様々なのでそれに応じた粘着シートの設置方法を検討する必要がある。
4. ほだ場の規模による粘着シートの設置数を検討する必要がある。

[具体的データ]



写真1 シイタケオオヒロズコガ
(上:幼虫 下:成虫)

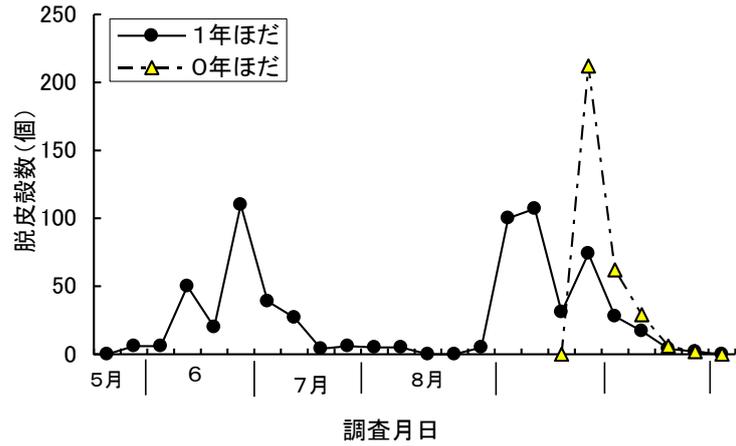


図1 シイタケオオヒロズコガ成虫発生消長

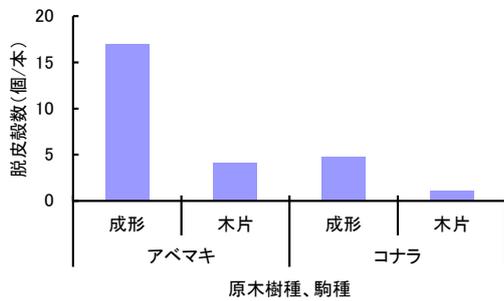


図2 ほだ木1本当たり樹種別・駒種別脱皮殻数

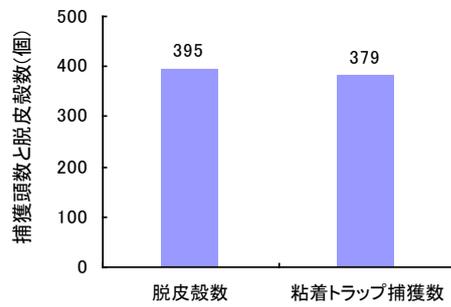


図3 粘着トラップによる捕獲数比較



写真2 粘着トラップの設置位置



写真3 捕獲されたシイタケオオヒロズコガ

[その他]

研究課題名：原木しいたけを加害するシイタケオオヒロズコガの生態解明と防除法の開発
 予算区分：県単
 研究期間：2010～2012年度
 研究担当者：吉本貴久雄、田嶋幸一、森口直哉